

鳥取大学農学部

同窓会報

高農



第39号

2018.4.



あいさつ

農学部同窓会会長

林 隆 敏

一昨年の6月に会長の役を仰せつかってから1年半以上が経過しました。会員の皆様方には日頃より農学部同窓会の運営に多大な御協力をいただき、どうも有難うございます。近年は地球温暖化の影響か、鳥取では冬期間の積雪が少なくなりましたが、昨年の冬、鳥取市の中心部でも久しぶりに1m近い積雪を記録し、あらためて鳥取が雪国であることを痛感いたしました。

さて、農学部同窓会では、2013年から4年ぶりに会員名簿を発刊することができました。近年は、プライバシー意識の高まりや個人情報保護の観点から、各種名簿の発刊が次第に難しくなりつつありますが、そうしたなかで多くの会員の皆様方からご理解とご協力をいただき、会員名簿が無事に発刊でき

ましたことは、大変喜びと致すところです。この場をお借りして、会員の皆様方に厚く御礼申し上げる次第です。

つぎに、鳥取大学農学部は2021年に創立100周年という大きな節目を迎えます。一昨年の定期総会では、事業計画の一環として農学部100周年記念事業準備委員会の設置をお認めいただきました。100周年記念事業は、鳥取大学農学部にとってきわめて重要な事業ですので、同窓会としても、農学部と密接に連携調整をはかりながら、さまざまな側面で農学部を支援していきたいと考えております。なお、事業の準備・実施に際しましては、会員の皆様方にも物心両面でご支援をお願いすることが出てくるかと思いますが、その節にはご協力を賜ることができ

主な目次

会長あいさつ……………1	ニューフェイス……………10
農学部長あいさつ……………2	支部だより……………12
役員会報告……………3	クラス会だより……………15
コストピックス……………5	

ば大変幸いに存じます。どうぞ、よろしく願い申し上げます。

ところで、同窓会では2年に1回、定期総会を開催しておりますが、今年は定期総会の開催年にあたります。以前と比べまして、定期総会に参加される会員の数が低調な状況にございますが、定期総会は同窓会事業の総括や今後の取り組みを審議する重要な場であるとともに、会員諸氏が直接会って旧交を

温めあうことができる貴重な場でもあります。是非、多数の皆様方にご参加いただき、総会や懇親会が盛り上がることを願っております。

最後となりましたが、農学部同窓会の今後ますますの発展や、会員の皆様方の今後ますますのご活躍とご多幸を祈念しまして、会長の挨拶とさせていただきます。



農学部長あいさつ

農学部長

田村文男

同窓会員のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。農学部長をつとめております田村です。微力ですが鳥取大学農学部が、これまで以上に発展できるよう努力する所存ですので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。さて、今年も農学部には様々なニュースがありました。ここでは主な点を報告いたします。

すでにご案内の通り、本年度4月から「生物資源環境学科」を「生命環境農学科」へと改組いたしました。6次産業化、環境保全、気象変動対策などに代表されるように、農学に対する社会と学生の要請は大きく変化しつつあります。今回の改組はこれに答えるべく教育体制を一新したものです。一方、平成25年からスタートした共同獣医学科は順調に教育を進めており、平成30年度末には獣医師国家試験受験を迎えることとなります。教職員もその準備に全力を注いでいるところですが、共同教育が大学院教育へも接続できるよう博士課程の改組も計画してお

ります。以上の様に、農学部は今後も不断の教育改革を進めてまいります。同窓生の皆様もどうぞ忌憚のないご意見、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

一方、研究面においては、最近論文等の成果発信も増加しており、その結果科学研究費や他の競争的資金の獲得割合も全国トップクラスを維持しております。今年度につきましては、多くの教員が重要な学会賞を受賞する、あるいは世界的な発見を行うなどのうれしい出来事がありました。このような学術振興の学風は、鳥取高等農業学校初代校長の山田玄太郎先生が示された「すぐれた研究者を集め、研究成果をあげることが、良い学生を呼ぶ」という基本精神によるところが大きいと感じております。先に述べましたように、新たな教授陣を加えつつ、地域に根ざし、しかも国内外トップクラスの研究を行うべく、研究環境整備と人材確保を進めてゆく所存です。

以上近況をお伝えいたしました。今後も先輩諸氏の築かれた歴史と伝統を活かして、教育と研究を充実させるべく、職員一丸となって邁進して参ります。同窓会員の皆さま方の一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



役員会報告

平成29年7月7日（金）18時30分より、ホテルモナーク鳥取において、23名の参加者のもと、同窓会役員会を開催しました。会議では、林隆敏会長挨拶のあと、平成28年・29年度中間事業報告が行われました。事業内容は以下の通りです。

（1）定期総会

平成28年6月25日（土） 午前11時～

〔場所：ホテルモナーク鳥取〕

（2）会報発行

第38号（平成29年4月）

（3）支部活動等

支部総会：合計14支部

クラス会：合計10クラス

（4）卒業式援助

卒業式（平成29年3月20日）に軽食等を提供

（5）慶弔事

供 花：谷口興治氏（E昭和39年卒：元副会長）

弔 電：6件

開所祝：（株）ラシック

（6）卒業生・新入生への記念品贈呈および優秀学生（学長表彰）への記念品贈呈

（7）高農資料室開所

平成29年2月25日（土）に行われた（株）ラシックの新社屋開所式と同時に高農資料室が開設（新社屋開所式には、山口亨副会長と能美が出席）。

つぎに、平成28・29年度中間会計報告が行われました（別資料参照）。そして、審議の結果、中間事業報告、中間会計報告とも承認されました。

なお、役員会終了後には懇親会が開催され、出席者は酒を酌み交わしながら、近況や昔の思い出、高農資料室の整備等の話題で話が弾みました。

（能美 誠・B55年卒）

平成 28・29 年度中間事業報告

平成29年3月31日

1. 定期総会 平成28年6月25日（土）11時より
ホテルモナーク鳥取
2. 会報発行 第38号・・・平成29年4月
3. 支部活動等
支部総会 14支部
北海道支部（H28.6） 熊本県支部（H28.6）
関東支部（H28.7） 石川県支部（H28.7）
山口県支部（H28.8） 岡山県支部（H28.8）
沖縄県支部（H28.10） 福岡県支部（H28.10）
福井県支部（H28.10） 愛知県支部（H28.10）
富山県支部（H28.11） 島根県支部（H28.12）
静岡県支部（H29.1） 香川県支部（H29.3）
クラス会 10クラス
A昭和41年 C昭和44年 C昭和53年 A昭和45年
V昭和31年 B昭和37年 F昭和36年 A昭和37年
V昭和33年 F昭和54年

4. 卒業式援助 平成29年3月20日
5. 慶弔事
供花 谷口興治氏（E昭和39年・元副会長）
弔電 伊藤 清氏（V昭和26年）
谷口興治氏（E昭和39年）
大森英夫氏（V昭和19年）
八木俊彦氏（旧教官）
松田昭美氏（旧教官）
丹松久夫氏（V昭和26年）
開所祝 （株）ラシック
6. 卒業生、新入生へ記念品贈呈 平成28年度
優秀学生（学長表彰）記念品贈呈 平成28年度
7. 高農資料室開所
8. その他

平成28・29年度 一般会計報告（中間）

平成29年3月31日

収入の部

(円)

科目	予算額	収入済額	差引残額	備考
前年度繰越金	951,609	951,609	0	
入会金	2,300,000	1,175,000	△ 1,125,000	平成28年度
会費	26,746,000	10,892,390	△ 15,853,610	一般 362,390 (23件)
預金利息	2,391	428	△ 1,963	新入生 10,530,000 (234件)
合計	30,000,000	13,019,427	△ 16,980,573	

支出の部

(円)

科目	予算額	支出済額	差引残額	備考
事務費	200,000	74,912	125,088	事務用品、コピー代等
通信運搬費	400,000	150,214	249,786	電話、郵送、手数料等
会議費	700,000	397,470	302,530	幹事会、役員会
旅費	2,300,000	1,261,352	1,038,648	支部総会出席旅費
支部援助金	1,500,000	720,000	780,000	14支部、10クラス会
賃金	6,000,000	2,320,000	3,680,000	賃金、事務謝金
会報発行費	5,000,000	0	5,000,000	
慶弔費	100,000	37,814	62,186	供花、弔電料等
卒業援助金	1,600,000	629,920	970,080	平成29年3月20日
総会費	700,000	624,484	75,516	平成28年6月25日
支部強化費	1,500,000	844,000	656,000	総会・支部総会出席旅費
広報記録費	1,000,000	404,884	595,116	就職ガイダンス、HP、パンフ
記念品費	2,200,000	1,116,936	1,083,064	卒業生、新入生記念品
学科コース援助金	700,000	300,000	400,000	3コース (@100,000)
備品費	100,000	489,817	△ 389,817	高農資料室
名簿代	1,500,000	750,000	750,000	新入生買取分
退職積立金	100,000	50,000	50,000	平成28年度
終身会費積立金	4,000,000	0	4,000,000	
高農跡碑移転費	300,000	546,480	△ 246,480	農学部より吉方へ
会費返金分	0	90,000	△ 90,000	退学者
予備費	100,000	0	100,000	
合計	30,000,000	10,808,283	19,191,717	

収入額 13,019,427円 - 支出済額 10,808,283円 = 2,211,144円

平成28・29年度 特別会計報告（中間）

平成29年3月31日

(1) 基本財産

(円)

科目	予算額	収入済額	備考
前年度繰越金	12,227,508	12,227,508	定期預金
預金利息	2,492	1,615	
合計	12,230,000	12,229,123	

(2) 終身会費積立金

(円)

科目	予算額	収入済額	備考
前年度繰越金	72,044,580	72,044,580	
一般会計より	4,000,000	0	
預金利息	25,420	15,423	定期預金
合計	76,070,000	72,060,003	

(3) 退職積立金

(円)

科目	予算額	収入済額	備考
前年度繰越金	1,111,699	1,111,699	定期預金
一般会計より	100,000	50,000	H28年度
預金利息	301	238	
合計	1,212,000	1,161,937	

コーストピックス

生物資源環境学科

生物生産科学コース

同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。まず、本コースの教員の動きですが、平成29年3月に中田昇教授（栽培技術学、A昭49年卒）が定年で退職されました。平成29年2月15日に最終講義、3月18日には記念祝賀会が開催され、県内外から多数の卒業生や関係者の皆様にご出席いただき、盛会のうちにこれらの行事を終えることができました。皆様方に厚く御礼申し上げます。田村文男教授（果樹園芸学、A昭57年卒）は農学部長・農学研究科長を、山口武視教授（作物管理学、A昭58年卒）は副学長（周年事業担当、学友会担当）および学生支援センター長を、東政明教授（昆虫機能学）はコース代表を、それぞれ昨年度より引き続き務められておられます。その他、大崎久美子講師（植物病害制御学、Na平13年卒）、佐久間俊助教（植物育種学）、竹村圭弘講師（園芸生産学、Na平20年修了）、辻渉助教（作物生産学、Na平12年卒）、中秀司准教授（害虫制御学）、野波和好准教授（農業生産工学、E昭60年卒）、森本英嗣准教授（生物生産システム工学）、小職・近藤（施設園芸学、Na平10年卒）の11名で、教育・研究に取り組んでおります。なお、平成29年度からの学科改組とコース再編により、4月から本コースの教員11名のうち、9名は植物菌類生産科学コースに、2名が農芸化学コースにそれぞれ所属もしています。

本コースでは3月に36名の卒業生と9名の修了生を送り出しました。現在は、学部2年生40名、3年生37名、4年生40名、修士課程2年生7名が在籍しています。お陰様で現在の4年生および修士2年生は、昨年と同様にほぼ就職・進学が決定しております。

最後になりましたが、教員一同で益々充実した教育・研究を目指し精進して参ります。農学部同窓生の皆様方には、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(近藤謙介・Na平10年卒)

植物菌類資源科学コース

同窓生の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。本コースの近況について報告させていただきます。

本コースは他大学には無い特徴あるコースであります。その教育コースも12年を経過し、これまでの8年間で321名の卒業生を、そして、95名の修了生を育成するに至っております。本コースの同窓生におかれましては、同窓生の幅が拡大したことについて喜んで頂いていると推察いたします。

一方、現役学生においては研究活動面で顕著な功績が多数ありましたので紹介いたします。修士2年生の音田由紀子さんは日本きのこ学会における優秀発表賞、修士1年生の松川すみれさんと本城真也君は植物微生物研究会における学生優秀発表賞（ポスター賞）を、学部4年生の井上理子さんは、日本宇宙生物学会における優秀発表賞を、そして、学部4年生の井谷優さんはThe 11th Ubon Ratchathani University Research ConferenceにおけるBest poster award in science and technology sectionをそれぞれ受賞されました。このように現役学生も先輩の功績を受け継ぎ頑張っております。

一方、本コースを担当する教員は、明石欣也教授（分子細胞生物学）、會見忠則教授（微生物資源学）、遠藤直樹助教（菌類分類生態学）、岡真理子准教授（植物環境生理学）、上中弘典准教授（植物分子生物学）、早乙女梢（菌類系統学）、田中裕之准教授（A平成8年修了：植物遺伝学）、中桐昭教授（菌類多様性学）、前川二太郎教授（A昭53年卒：菌類分類学）、松本晃幸教授（C昭52年卒：菌類遺伝資源学）そして小職、霜村典宏（A昭和62年卒：菌類育種栽培学）の11人です。優秀な学生さんをさらに育成すべく奮闘しております。

同窓の皆様におかれましては多大なるご支援とご協力を賜り、厚くお礼申しあげます。今後も引き続きご協力の程よろしくお願い申し上げます。

(霜村典宏・A昭和62年卒)

生命・食機能科学コース

同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。本コースの近況をお知らせ致します。

平成29年度から改組により農学部の教育体制と陣容が大きく変わり、生命・食機能科学コースの全教員は「農芸化学コース」の教員としても新たな一歩を踏み出しております。

現在、生命・食機能科学コースには学部4年生34名、3年生32名、2年生33名、修士課程2年生11名が在籍しています。修士課程1年生の15名は農芸化学コースの所属になります。学部4年生と修士2年生は、ほぼ就職や進学などが決定し、それぞれ卒業論文、修士論文の完成を目指して日々研究に励んでいます。また、修士課程の学生は、平成29年9月27日に行われた修士論文中間報告会でこれまでの研究成果を発表し、改めて気持ちを引き締めて研究に取り組んでいるところです。

現在、生命・食機能科学コースの教育を担当しているのは、渡邊文雄教授（食品科学）、河野強教授（生物有機化学）、石原亨教授（天然物化学）、一柳剛教授（有機化学）、有馬二郎准教授（生命機能化学）、藪田行哲准教授（栄養科学）、岩崎崇准教授（生体制御化学）、上野琴巳講師（生物活性化学）、小職（助教、食品機能学、Nc平成20年卒）の9名です。

生命・食機能科学コースとして残された期間は2年余りではありますが、体制の変化に影響されることなく、教員一同協力して学生と一緒に良い教育研究の場を作るとともに、最後まで化学を基本とした特色のあるコース作りを目指す所存です。同窓会会員の皆様には、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（美藤友博・Nc平成20年卒）

環境共生科学コース

同窓会員の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。今年度から新体制がスタートしましたが、環境共生科学コースとしては後2年継続します。2足のわらじで進むこととなりますが引き続きよろしく願いいたします。現在本

コースを構成している森林系8名の教員は里地里山環境管理学コース、農業土木系6名の教員は国際乾燥地農学コースへ所属しております。

教員の動きですが2018年3月末に、佐野淳之教授（森林生態系管理学）が、退職を迎えられます。長年のご活躍に敬服いたします。この機会に皆様からお祝いのご連絡を頂けると幸いです。また、2017年1月に岩永史子講師（樹木生理学教育研究分野）が着任されました。そのため2018年度の教員体制は、次のようになります。大住克博教授（森林利用システム学）、日置佳之教授（生態工学）、長澤良太教授（景観生態学）、猪迫耕二教授（水土環境保全学：学科長）、緒方英彦教授（農業造構学）、芳賀弘和准教授（緑地防災学）、藤本高明准教授（環境木材利用学）、清水克之准教授（水圏環境評価学）、齋藤忠臣准教授（地圏環境保全学）、岩永史子講師（S平成14年卒）、吉岡有美助教（水圏環境科学）、芳賀大地助教（森林経営学）、そして兵頭正浩准教授（S平成16年卒、施設環境工学）です。改めて教員体制を見ると、私が学生だった頃の10年前に在籍されておられた先生方は、半数以上退職されており、なんだか寂しく感じる今日この頃です。しかし、最近卒業生である大先輩方や指導学生とも一緒に仕事をする機会も増えており、これまで在籍された先生方が構築されてきた関係を再び築きあげる楽しさも感じています。日々全力で取り組まれておられる同窓会員の皆様には、ふと大学時代が懐かしく感じられることがあると思います。本会報に懐かしい名前（もちろん仕事でも）がございましたら、遠慮無くお立ち寄りください。

今後とも、ますます充実した研究教育体制を目指して参りますので、同窓会員の皆様のお力添えを賜りますよう、何卒よろしく願い致します。

（兵頭 正浩・S平成16卒）

フードシステム科学コース

同窓生の皆様方におかれましては、お元気でご活躍のことと存じます。現在、フードシステム科学コースは、現在6名の教員が教育、研究、地域貢献、学内の管理運営等の仕事に当たっています。

まず、平成29年4月に片野洋平先生が准教授に昇

任されました。片野先生は「食・農・環境の法社会学分野」の担当で、農学部では唯一、法学や社会学を専門とする教員です。鳥取県内の日南町や智頭町を中心に、空き家、農地、山林等の未利用または放棄された資源の管理問題に関する研究を行っておられます。

古塚先生は、今年も副学長として多用な毎日をご過ごされています。また、今年度は松田先生がコース代表を担当されています。平成29年4月には、2年生が18名、フードシステム科学コースに所属してきました。今回分属した学生が、フードシステム科学コースの最後の学年となります。平成30年4月には、改組により誕生した生命環境農学科の学生が各コースに分属しますが、フードシステム科学コース担当の教員は、全員が新しく設置された「里地里山環境管理学コース」の教育を担当することになります。

ところで、フードシステム科学コースでは、6年前よりタイのコンケン大学農学部農業経済学科と教員・学生が相互交流を行っていますが、平成29年度は8月にフードシステム科学コースから1名の学生がコンケン大学を訪問し、10月にはコンケン大学から教員1名と学生5名が約1週間の日程で鳥取大学を訪問しました。

最後に、現在の教員構成はつぎの通りです。

会計・経営システム学分野	：古塚秀夫教授
食環境経済分析学分野	：能美 誠教授
消費者行動学分野	：松田敏信教授
農業経営学分野	：松村一善教授
流通情報解析学分野	：万 里准教授
食・農・環境の法社会学分野	：片野洋平准教授 (能美 誠・B55年卒)

国際乾燥地科学コース

同窓会員の皆様におかれましては、益々、ご健勝でご活躍中のことと、お慶び申し上げます。

コースでは現在、学部学生の2年生27名、3年生28名、4年生27名が在籍しております。2月に行われた「国際乾燥地農学実習」では、2年生25名がメキシコとタイに分かれて、約1ヶ月間、海外の農業現場において有意義な実習に励み、それぞれが貴重

な体験を得ることができました。また、学部2年生と3年生の1名ずつが昨年度より10ヶ月間、ウガンダへ留学しておりましたが、間もなく帰国の予定です。4年生は就職活動、卒業論文などに取り組み、充実した貴重な学生生活最後の年を送っています。それぞれ、実習、留学、勉学、研究に励むことにより、新たな課題発見をし、さらなる飛躍を目指して努力を続けております。今後、それぞれの目標に向かって努力していく上で、これらの経験が活かされるものと思います。

今年度より、安延久美先生(国際農業開発学)は、副学長(国際交流推進担当)として益々ご多用な日々を送られています。また、アスレス先生(国際農業普及学)は、育児休暇のためしばらくお休みでしたが、4月より復帰される予定です。そして、山本定博先生(環境土壌学：C昭58年卒)、山田智先生(植物栄養学)、西原英治先生(乾燥地作物栽培学)、衣笠利彦先生(乾燥地緑化保全学)、遠藤(乾燥地環境資源学)の7名体制で、コースの教育研究を行っています。それぞれの教員は国内外いろいろな地域へ出かけ、教育や研究活動を精力的に行っています。分野に所属する学生も教員と一緒に海外で研究調査に励む機会も多く見受けられ、教育や研究活動を精力的に行っています。

末筆になりますが、今後とも、同窓の皆様のお力添えをお願いしたいと思います。何卒よろしくお慶び致します。

(遠藤常嘉・N平4年卒)

共同獣医学科

同窓会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。獣医学科の近況をお知らせいたします。

共同獣医学科が発足して5年目となり、昨年度の終わりには4年次学生を対象とした獣医学共用試験が初めて実施され、無事に全員が合格いたしました。本年度から、5年次学生は半年間にわたって附属動物医療センター、Nosai鳥取、鳥取放牧場などで総合参加型臨床実習を受講いたしました。学外での実習では、同窓の諸先生方にも大変お世話になり、この場をお借りして御礼申し上げます。現在、

6年次学生は卒業論文の提出および発表も終わり、国家試験に向けた猛勉強の日々を送っています。春には獣医師として巣立っていく姿を想像しながら、叱咤激励したいと思います。

また、学科の教員組織につきましては、共同獣医学科長に日笠喜朗教授（獣医内科学）が再任され、学科の運営に多忙な日々を過ごしておられます。共同獣医学科の6年が完成する先には大学院教育の充実を計画しており、こちらの準備も多忙を極めております。学科内の人事異動では、附属動物医療センターの新任教員として山下真路特命助教（V平25年卒）が採用されました（平成29年8月1日付）。また、金京純助教（獣医寄生虫学）が准教授に昇任しておられます（平成29年4月1日付）。現在の共同獣医学科の教員は34名、附属動物医療センター専任教員2名となっています。

今後とも、益々充実した獣医学教育を目指して教員一同努力してまいりますので、同窓会員の皆様方のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

（竹内 崇・V昭61年卒）

フィールドサイエンスセンター

同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。附属フィールドサイエンスセンター（FSC）の近況をお知らせいたします。

センターの教員構成としましては、森林部門：大住克博教授（森林利用学、センター長、部門長）、生物生産部門：近藤謙介講師（Na平10年卒、施設園芸学、部門長）、普及企画部門：山口武視教授（A昭58年卒、作物管理学、部門長）、小職・野波（E昭60年卒、農業生産工学）、の3部門4名となっております。大住教授は、教育環境の充実のため、教育研究林の設備や研修施設の改善に精力的に取り組まれおり、さらに今年からセンター長としてセンターの運営にもご尽力いただき、大変お忙しい日々を送られております。近藤講師は、リーダーシップを発揮してセンターの環境美化に積極的に取り組んでおられ、成果が表れてきています。また学内販売の充実・拡大のため、加工品にも取り組まれ、少しずつ

販売品目が増えてきているところです。山口教授は副学長と学生支援センター長の要職も兼務され、毎日過密スケジュールをこなす傍ら、地域貢献にも積極的に取り組まれておられます。野波は地域貢献すべく、県内を中心に動き回っています。

そして技術職員は現在10名おり、教職員あわせて14名で農地や森林において教育、研究に汗を流しております。児童とその保護者に食について知っていただく機会を提供することを目的に続けている「FSCめぐりスクール」に加え、昨年から「FSCめぐりの学びの舎」を立ち上げ、農業に関心のある皆さんにFSCで行われている教育・研究の一端をお伝えする場を企画しております。これからも地域に根ざした教育、研究および情報発信に教職員全員が力をあわせて取り組んで参ります。今後とも同窓会員の皆様のご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

（野波和好・E昭60年卒）

動物医療センター

農学部同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。農学部附属動物医療センターの近況をご報告いたします。

平成29年12月1日現在の臨床獣医学講座の教員は、内科学：日笠喜朗教授、原田和記准教授（平15年卒）、辻野久美子講師、外科学：岡本芳晴教授、大崎智弘准教授、神経病・腫瘍学：岡本芳晴教授（兼任）、伊藤典彦准教授（兼任）、東和生助教（平22年卒）、繁殖学：菱沼貢教授、西村亮助教（平25年卒）、臨床検査学：竹内崇教授（昭61年卒）、杉山晶彦准教授（平8年卒）、画像診断学：今川智敬教授、柄武志准教授、村端悠介助教（平22年卒）に加えて、8月から山下真路特命助教（平25年卒）が加わり、計15名となりました。この他に、センターのスタッフとして動物看護師4名と事務職員2名が勤務しています。

昨年度のセンターの診療件数は2,846頭、収入額は約9,400万円でした。今年度は、設備の老朽化に対応しながら、脳外科手術用顕微鏡と眼科手術用顕微鏡を導入し、今後、放射線治療装置と尿管鏡を導入する予定です。

教育面では、昨年度、4年生を対象として獣医学共用試験が実施され、コンピュータを使用した選択試験（vetCBT）と臨床実技試験（vetOSCE）に全員が合格しました。今年度は、この共用試験に合格した学生が Student Doctor として総合参加型臨床実習に参加しました。これらの教育活動により、広い視野に立って人と動物の架け橋となる人材を輩出することは、獣医学教育に携わる者の責務であると感じており、卒業生の皆様のご協力・ご援助が不可欠と思っております。今後とも農学部同窓生の皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。

（動物医療センター長 菱沼 貢）

菌類きのご遺伝資源研究センター

同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。菌類きのご遺伝資源研究センターの近況についてご報告致します。現在、本研究センターは、遺伝資源多様性研究部門 [松本晃幸教授 (C昭52年卒)、前川二郎教授 (A昭53年卒)、遠藤直樹助教]、遺伝資源評価保存研究部門 [中桐昭教授 (センター長)、早乙女梢准教授]、有用きのご栽培研究部門 [霜村典宏教授 (A昭62年卒)、會見忠則教授 (兼務)]、新機能開発研究部門 [太田利男教授 (兼務)、北村直樹准教授 (兼務)、高橋賢次准教授 (兼務)]、および物質活用研究部門 [渡邊文雄教授 (兼務)、石原亨教授 (兼務)、一柳剛教授 (兼務)、大崎久美子講師 (兼務、Na平13年卒)] の5研究部門14名体制で菌類きのごに関する基礎および応用研究に取り組んでいます。鳥取大学は、平成28年度から始まった第3期中期目標期間（6年間）に本学の目指すべきビジョンとして、“地域に根ざし、国際的に飛躍する大学”を掲げて、3つの戦略を立てて取り組んでおります。本研究センターはその中の取組みの一つとして、“健康で安全な社会のための菌類きのご資源の活用推進”をテーマに、医農連携プロジェクトとして、膨大なきのご類菌株コレクションや子実体に由来する抽出物を探索源にして、医薬や機能性食品、ヘルスケア用品などにつながる生理活性物質の探索を進めています。また、きのごが発する香り成分（揮発性物質）から、植物病害菌の生育を抑え、安全な生物農薬として活用が期待で

きる物質の探索も行っていきます。この様な取り組みによって、きのご類資源のさらなる充実とその活用に関する基礎および応用研究を推進し、“きのごの研究”が鳥取大学の特色の一つとなるよう努力してまいります。

同窓生の皆様にはこれまでに多大なご支援を賜りまして厚くお礼申し上げます。今後とも引き続きご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

（センター長 中桐 昭）

鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター

昨年11月に鳥根県で回収されたコブハクチョウの死体から、H5N6亜型の高病原性鳥インフルエンザウイルスが分離されました。本学において分離されたこのウイルスの全長遺伝子を解析した結果、このウイルスは昨シーズンの国内流行株とは由来の異なるウイルスであり、今シーズン大陸から新たに国内に侵入したウイルスであることがわかりました。

本センターではこの情報をプレスリリースとして逸早く世界に発信し、同時に農林水産省を通じて、全国の養鶏関係者に伝えてもらうことで、本ウイルスがすでに国内の自然環境中に侵入しており、養鶏場での本病の発生リスクが高まっていることの警報を発令することができました。

このように本センターは平成17年の設置当初から農林水産省および環境省との連携のもと、本病に対する国内の疫学調査と防疫対応に貢献してまいりました。センター教員が発生農場における疫学調査チームのメンバーとして参加し、感染経路究明のための疫学サンプルの解析を実施したり、あるいは同省の食料・農業・農村政策審議会家畜衛生部会や環境省の鳥インフルエンザ専門家会合のメンバーとして、専門的な立場から本病の国内防疫対策に対する助言・指導等を継続的に行って参りました。

また国外においても、日本医療研究開発機構（AMED）のもとで、感染症研究国際展開戦略プログラム（J-GRID）「ベトナムにおける包括的な鳥インフルエンザ研究」を継続実施しております。

周辺諸国に今尚、感染源が存在する限り、我が国はウイルスの国内侵入に対する警戒を緩める訳には

参りません。国内唯一の鳥類感染症の専門機関としてこれからも鳥由来人獣共通感染症の制圧に向け、スタッフ一同尚一層精進してまいりたいと存じます。引き続き皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(センター長 伊藤壽啓)

乾燥地研究センター

昨年2月より始まった本館改修工事が9月末に終わり、多くの研究室が仮住まいから戻り、ようやく落ち着きを取り戻しました。

2年前の国際乾燥地研究教育機構の発足により、本センターに勤務する外国人教員が5名増えるとともに、プロジェクト付きの外国人特任助教が2名増え、従前からの外国人客員教授を含めると、外国人教員の数が日本人に匹敵する二桁の大台に乗りました。在籍する学生も、39名のうち28名が留学生となっており、会議に外国人教員セクレタリー職員による同時通訳が加わり、事務連絡や学生への連絡も

英語併記となりました。また、事務負担が増していることから、事務補佐員を4名増員し、一層賑やかになりました。

北村先生(E46年卒、水利用学)と山本福寿先生は今年度も引き続き特任教授として研究に勤しんで頂いております。井上先生も週に2日ほどアルバイトとして出勤されています。

基幹的プロジェクトとして、新たに「砂漠化地域における地球温暖化への対応に関する研究」(代表:黒崎准教授)が始まりました。農学部からも辻先生、衣笠先生に参加頂いております。農学部から明石先生、児玉先生、辻先生、清水先生に参加頂いている(通称)「限界地プロジェクト」も今年、最終年度を迎えます。

このように、農学部の先生方とともに研究と教育と国際協力に勤しんでおりますので、引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(藤巻晴行)

ニューフェイス

生命環境農学科

●教授 唐澤 重考

平成29年4月1日に農学部生命環境農学科に着任いたしました唐澤重考と申します。地域学部から移動しての着任となりますが、地域学部への着任が平成28年4月でしたので、鳥取に来てからまだ2年も経ちません。専門は、多様性生物学で、とくに土壌中に生息する節足動物の多様性を、分類学、分子系統地理学、生態学のアプローチにて解明を目指しています。何卒よろしくようお願い申し上げます。

●教授 小玉 芳敬

平成29年4月1日付で、鳥取大学地域学部地域環境学科より生命環境農学科に配置換えとなりました。専門は地形学で、岩石が風化などで岩屑となり、様々な営力により移動した結果の地形について、野

外調査や水路・風洞実験で研究しています。地形の成り立ちを流域単位でまるごと理解したいです。これまでの砂丘研究を古今書院「鳥取砂丘学」にまとめることができました。今後は伯耆大山にも再び挑戦しようと思えます。何卒よろしくようお願い申し上げます。

●教授 田村 純一

平成29年4月1日付で、地域学部地域環境学科から農学部生命環境農学科に異動しました。農学部では農芸化学コースを担当します。学生時代から生物活性を指向した糖鎖の化学合成を研究しており、鳥取大学で始めた駆除獣や魚介類不可食部などから有用糖鎖を単離・構造決定する研究も成果が上がりつつあります。引き続き本学の教育研究の発展のために尽力する所存です。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

●教授 鶴崎 展巨

改組により平成29年4月に地域学部地域環境学科から移動してきました。専門は動物分類学で、ザトウムシなどのクモ形類、多足類、昆虫などの分類、染色体、地理的変異、種分化、生物地理、生活史、進化などをおもに研究しています。環境省版、ならびに鳥取県等の地方自治体版のレッドデータブック作製、鳥取県内の地域単位の動物相調査、鳥取砂丘などの山陰海岸ジオパークの生物多様性保全などにも長くかかわってきました。よろしくお願ひします。

●教授 永松 大

平成29年4月1日付で着任いたしました永松 大です。専門は森林生態学で、東北大学理学研究科で学位取得後に森林総合研究所研究員として造林研究に携わりました。鳥取大学に採用後は地域学部地域環境学科で鳥取砂丘ほか地域の植生保全、森林林業振興に取り組んできました。研究者人生の後半を農学部の充実した環境で送るチャンスをいただき、心新たに教育研究にいそしみ本学と地域の発展に貢献する所存です。皆さまのご指導よろしくお願ひ申し上げます。

●准教授 田川 公太郎

平成29年4月1日付で生命環境農学科・自然エネルギー工学分野の准教授として着任しました田川公太郎と申します。これまで本学の地域学部地域環境学科にて、太陽・風力エネルギー利用技術の教育研究に取り組み、近年では乾燥地に適した技術や農業生産への応用に関する研究も推進しております。今後も本学の発展のために、ますます教育研究に励みますので、同窓会の皆様方のご支援ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

●准教授 寶來 佐和子

平成29年4月1日付けで地域学部地域環境学科から生命環境農学科国際乾燥地農学コースに異動致しました。東京農工大学で学位を取得した後、鹿児島大学、愛媛大学を経て現在に至ります。私の専門は環境化学です。化学物質とくに微量元素に着目し、環境中の汚染実態と野生動物やヒトへの影響を評価

する研究を行っています。多くの研究者や地域の人々と協働することが、多くの学びに繋がっていることを日々実感しております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願ひ申し上げます。

●講師 池野 なつ美

改組により地域学部地域環境学科から異動してきました。これまで奈良女子大学で素粒子原子核分野の理論的な研究を行い、博士(理学)の学位を取得後、東北大学などで研究員を経て、平成27年に鳥取大学に着任いたしました。農学部では、主に物理学の講義を担当しております。物理学は自然科学の土台となる学問であり、物理学の知識や考え方は農学分野でも重要となるため、しっかり教育活動に励みたいと考えております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

●講師 岩永 史子

平成29年1月1日付で生命環境農学科樹木生理学分野の講師として着任いたしました。就任にあたり同窓会員の皆様に謹んでご挨拶申し上げます。鳥取大学農学部で学位を取得した後、本学乾燥地研究センター・研究員、九州大学農学部特任助教および決断科学センター助教を経て現在に至っております。現在は樹木の水利利用特性解析を主テーマとして乾燥条件や低温条件との応答について研究を進めています。今後も本学の発展につながるよう教育研究に励みたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願ひいたします。

●講師 菅森 義晃

大学改組に伴い、地域学部から農学部へ配属されました。大阪市立大学で地質学を学び、現在は地質学で地球を知ることと伝えることを楽しんでいます。研究室にいるのが嫌いで、フィールドに行って、地層の積み重なりを調べたり、堆積物から放散虫と呼ばれる微化石を抽出し、地層のできた年代や放散虫類の進化を調べたりして、地球の歴史(古生代後期以降の東アジア東縁のテクトニクスや生物進化、環境変遷が主な研究対象)を明らかにすべく研究を行っています。

農学部附属動物医療センター

●助教 山下 真路 (Nc平成20年卒)

平成29年度8月より農学部附属動物医療センターの特命助教に着任致しました山下真路（獣医学科平成25年卒）と申します。就任にあたり同窓会員の皆様方に謹んでご挨拶を申し上げます。担当する実習

は今年度から新たに始まりました、総合参加型臨床実習となります。従来の臨床実習よりも長時間実践的な実習が行えるようになったこの実習を通して、より実践的な知識や経験を持った獣医師を排出できるよう学生の今日教育を行なって行きたいと考えております。何卒よろしくお願い致します。

支部だより

関東支部

宮本 直彦 (E昭58年卒)



今年度の関東支部の総会・懇談会は、7月7日（金）の夜に、会員26名のご参加を賜り開催いたしました。大学からは山口武視副学長・フィールドサイエンスセンター教授（A昭58年卒）にお越しいただき、農学部の改組のお話など大学の現状についてお話いただきました。

今年度は役員改選ではありませんが、山根康義副会長（V昭34年卒）が辞任され、新たに平山紀夫副会長（MV昭48年修了）が選出されました。山根様には長年副会長としてご尽力いただきました。ありがとうございました。

今回は、山下芳生参議院議員（E昭57年卒）にもご参加いただき、懇親会では、例年以上に時間を忘れて話が盛り上がり、楽しい時間を過ごしていただいたものと思っております。

来年度も七夕の7月7日（土）の昼の開催が決ま

っております。

毎年ご案内しておりますが、前年度以前の未納会費は請求いたしませんので、今年度の「総会・懇親会のご案内」が届かなかった方、あるいは転勤等で関東地区に転居された方で参加を希望される方は、後述のメールアドレスまで、（奮って？安心して？）ご連絡下さい。→naohiko_miyamoto@dnc.co.jp

また、「Facebook」に「鳥取大学農学部関東同窓会」のグループを作成しました。まだまだ、参加者数も情報量も少ないですが、こちらにもご参加いただき、情報交換等に活用いただければ幸いに存じます。

静岡県支部

長谷川剛司 (F昭58年卒)



昨年1月に仕事で鳥取に行く機会を得た。その際、鳥取在住の同窓生の計らいで、ミニ同窓会が開催された。昔の面影のある人、無い人、それぞれだが、青春のころに戻り、楽しいひと時を過ごさせていただいた。

さて、静岡県支部では、毎年1月に総会と懇談会を開催している。平成30年も1月6日に、鳥取大学から能美誠教授（農経55年卒）をお迎えし、同窓生

25人が集い開催した。

総会は、支部長の永井正さん（農学50年卒）のあいさつの後、会務・決算を手短に報告し、能美教授に大学の近況報告をいただいた。いろいろと大変な中で、がんばっている母校の姿を心強く思ったが、また、学科が変わるようについていけなくなりつつある。

懇談会は、今回、最長老の松南徹さん（農工S33年卒）の乾杯で始まった。同窓会からいただいた「強力」、10月に来静した田村農学部長のお土産「瑞泉」、栗田守雄さん（農経S52年卒）の差し入れをいただき、滑舌が良くなったところを見計らって、近況報告へと移る。

近況報告では、昨年度、青森から静岡に来られた松本由梨さん（農林総H15年卒）に「静岡に来て良いと思ったところは」との突然の質問が出るなど、例年どおり話しの花が咲いた。また、今年は不健康自慢が少なく、ウォーキングやゴルフなど健康維持に頑張っている報告が多かったと感じる。

締めめの「貝殻節」だが、年とともに下手になっていると感じ、今年はスマホで音源を用意したが、歌を歌う声が大きすぎて、ほとんど役に立たなかった。最後は、来年の幹事科を代表して、岩崎克己さん（農学S57年卒）の閉会のことばで懇談会を閉じ、元気の良い14人はまだ明るい街中に繰り出し二次会へと向かった。

ほとんどの方が一年に一度お会いするだけであるが、静岡県支部の総会と懇談会は、また来年も会って老いも若きも杯を酌み交わし、翌日は二日酔いで苦しむ、そんな楽しい集まりである。

福井県支部

柴田 諭（BF平19年卒）

平成29年10月28日（土）、平成27年度以降、毎年開催されている福井県支部同窓会が「炭火ステーキキッチン&バル」（福井駅東口アオッサ内）において開催されました。本部よりご多忙の中、フィールドサイエンスセンターの野波和好先生と農学部生物資源環境学科に在学中の浅川和星様にご参加を賜り、出席者19名での開催となりました。



定時総会に先立ち、出席者全員で平成29年10月にお亡くなりになられた山内武士様（A昭23年卒）の黙祷ののち、多田憲市会長（V昭38年卒）の挨拶をいただき、事業報告および会計報告など議事は滞りなく進められました。

野波先生からの鳥取大学の近況報告につきましては、本県支部の同窓会が農学部だけでなく教育学部や工学部の卒業生も参加していただいていることから、大学全体の話をお聞きできるなど、大変実りあるものとなりました。

宮澤清様（A昭20年卒）の挨拶、小谷克朗様（F昭33年卒）の乾杯でスタートした懇親会では出席した会員の自己紹介や近況報告を行い、当時の思い出話など年齢や学科を超えた歓談が行われ、安部嘉幸様（B昭35年卒）に締めていただきました。

在学生の浅川様からは、卒業後には福井県に戻りたいというお話も聞くことができたことを受け、ますますの支部の発展のため、近年、参加の少ない若手の参加呼びかけにより、参加しやすい環境づくりを目指していかなければいけないと身の引き締まる思いとなりました。

和歌山支部

坪井 考明（F昭50卒）

和歌山県支部（鳥和会）の2年に一度の総会・懇親会を平成29年7月1日に、本部から能美誠教授（里地里山環境管理学コース）に御来県いただき、JR和歌山駅前のかごの屋で開催しました。

総会に先立ち、能美教授から大学の近況・旧校舎の保存などのお話をいただいたのですが、配送業者の手違いから本部から送られたパンフレット等が届



いていないというアクシデントがあったにもかかわらず、生命環境農学科への改編についても判りやすくご説明いただきました。

時代の流れを感じると共に、大学の運営も大変だなあとの思いで伺った次第です。

その後の議事も滞りなく終了し、懇親会に突入したのですが、まもなく荷物が到着し、一段と座が盛り上がりました。

今回も参加者17名と少なめでしたが、紅一点の源出(旧姓小澤・Nm平13卒)さんが能美教授の教え子だと判明するなど、昔話や近況報告などに話題が尽きず、予定していた2時間も本部から差し入れの2本の地酒「強力」もあつという間で、会員の健勝と次回の再会を祈念しての散会となりました。

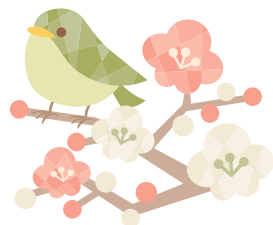
なお、役員改選で、支部長:西村直己(V昭53卒)、副支部長:玉置(旧姓楠山)美保子(B昭53卒)・川端康紀(E昭54卒)・吉川克郎(V平3卒)の体制となり、今後も同窓会を盛り上げていきたいと考えています。

福岡県支部

麻生 昌彦 (E昭46年卒)



同窓会関係各位におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。昨年も色々な出来事がありましたが、中でも想定外は「九州北部豪雨」でした。7月5日～6日、福岡県朝倉地方(県中部)で1時間雨量169mm、24時間雨量1000mm(推定)以上という激しい雨が降りました。雨は中山間部に集中したため土砂崩壊と小河川が氾濫し濁流、流木により大勢の方々が被災されました。同窓生の中にも家屋被害を受け、現在も避難生活を余儀なくされている方もいます。一刻も早い復旧が望まれますと共に日頃より災害への備えを怠らないことの大切さを痛感させられます。ところで、昨年の支部同窓会ですが、9月9日本部から近藤謙介先生(附属フィールドサイエンスセンター)、横地祐英さん(Be3年生)においでいただき北九州市で開催しました。出席者は鹿毛眞、浪折紀文(E昭和39年卒)さんを始め21名の方々が参加されました。徐々に参加者も増え、2年ぶりに近況や昔話、世間話で大いに盛り上がりました。今年は福岡市で開催します。支部の皆様方は勿論、機会があればどうぞご参加下さい。



現住所、勤務先等変更があった場合にはご一報下さいますようお願いいたします。

dousou@toridai-nougakudousou.com TEL 0857-28-9262

クラス会だより

獣医学科昭和32年卒

金田 耕治

おりしも全国乾椎茸品評会（平成29年6月15日）会場は鳥取高農材料出身の先輩が創設した日本きのこセンターのしいたけ会館、前回もう一度鳥取の地でやろうと熱望した北海道の友は奥様の病気で手はなせない。ゲートボールは出来るが認知症がひどくすぐ忘れてしまったもの、偉い人になり希望の日をしてやったにもかかわらず出席できないものが開催直前に出席取消。最近なくなったクラスメイト2名の黙とうから始まり、これまで話しもあまりしなかった人が、能弁となり90歳まで生きると宣言して体調談話をリードした。大イベントは交通事故に合ったが生きかえった広島の子は大学合格証からオリエンテーション、学規国家試験問題集まで暖味のあるザラ紙でガリバン刷の書類一式を持参した、一同がここまでよく保存したものだと思感したものです。

やはり行くつとくところは獣医ストームの歌でしめくりフワイト充滿。もう一度皆が集まりやすい所で早くやろうと云うことになりました。



獣医学科昭和38年卒

井嶋 龍男

「井嶋君やり直し」担当教官の大声が響き渡る。農場実習での田の草取り、今日はどのパチンコ店に行こうかなどと考えていたのに…。

あれから55年も経ったのかと今更ながら思う。

昨秋同窓会の援助を頂いて節目の会を鳥取で開いた。4年前は津川保次郎君の世話で厳島神社でお祝

いをうけるなど、我がクラスはおおむね4～5年周期顔を会わせてきた。

懇親会ではウオーキングや家庭菜園で健康保持に努めている者が大半で、中にはこの前まで専門学校で講義していた者、スイカなどをJAに出荷している百姓家、さらには放置自転車の追放など地域の美化活動に精をだしている者など、活躍している報告もあった。

翌日は吉方校舎を見学したが、正面右側には学部長室があって、左は学生課、2階は教室だったななどと話がはずんだ。それにしてもIT企業LASSICさんには心こもった対応と校舎管理に感謝。

その後砂の美術館、砂丘研究室へ移転された門柱などを見て賀露で昼食後散会。

振り返ってみれば授業も結構サボっていて余り勉強した覚えがないし、夜の街で少々羽目を外しても「高農の学生さん」で大目にみてもらったように思う。良き時代だった。

次回も傘寿の祝いを徳島で開く予定。



林学科昭和54年卒

熊田 安亮

早いもので、私たちが鳥取大学に入学以来42年が経過し、本年で同期生のすべてが還暦を迎えることを記念して、平成29年4月29日、鳥取市のしいたけ会館（対翠閣）で同窓会を開催しました。

参加者は、対象者38名の中から東は群馬、北は富山、南は宮崎、西は熊本より総勢31名を数え、恩師の作野先生を含め32名で旧交を温めました。

鳥取は卒業以来という参加者はこの地の変貌に驚き、また再会の時点では誰かわからないという参加

者もいましたが、少し会話を交わしただけで記憶がよみがえり、容貌の変化にお互い苦笑するところから会がスタートしました。

乾杯の後は、昔話からお互いの近況報告、当時の秘話、また残念ながら今回欠席となった人のメッセージ紹介など話題は尽きることがなく、ほとんどの参加者が二次会まで参加、3年後の再会を約束したところでお開きとなりました。



農学部創立100周年について

鳥取大学農学部は平成33年（2021年）に創立100周年を迎えることとなります。農学部創立100周年は同窓会にとっても非常に大きな節目であり、同窓会としても農学部と協力しながら、創立100周年事業に積極的に関わっていくことにしています。今後、100周年事業の実施に関しては、創立100周年記念事業準備委員会を立ち上げることとしています。

なお、創立100周年事業の実施につきましては、同窓会会員の皆様方からもご支援、ご協力を賜ることができればと考えております。今後、創立100周年事業の実施に関わって、具体的なお願いを行うことがあるかと存じますが、その節には、温かいご支援、御協力のほど、どうぞよろしくお願い致します。

（能美 誠・B55年卒）

事務局だより

会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか？私こと北嶋邦恵はこのたび本当に長きにわたりお世話になりました同窓会を卒業させていただくことになりました。

ず〜〜と昔々縁あって鳥取に来てすぐ、同窓会事務のお話をいただきました。以来40年!!同窓会一筋で仕事をさせていただき、今では「歩くお局さま」「生き字引」と言われるまでに成長？いたしました。初めて出会った学生さんが、この前還暦のクラス会！もうビックリです。

初めての仕事は和文タイプ！当時、公用文書作成は学部専属のタイプスト。いきなり、タイプと言われ、正直途方にくれました。それでも、厚かましくも、図々しくも優しいタイプストの方を捕まえては教えていただき、遅いなりにも何とか打てるようになりました。ワープロが登場した時の喜びたるや・・いかにばかりか。

会計もしかり。当時の会計係長にピタ〜ッとくつつき、「えっ、どうでしたっけ・・。」あきれ顔をされながら1から、いえ0から教えていただきました。

思い起こせば、想像出来ないことばかりです。1,000通入りの封筒10箱！毎日マメをつぶしながら、ひたすら書いて書いて格闘した宛名書き。いっこうに減らない山積みの箱を見上げ、出るはため息ばかり。

時は過ぎ、出てくる、出てくるラベルを目にし、

お〜神業！

名簿作業。気の遠くなるような数の訂正の校正作業。発送作業は夜中まで(夜食はしっかり食べましたが)。封入した名簿を自らトラックに積み、さあて出発。と同時に空から無情の雨つぶ・・。それでも、大変な場面・場面で助けて下さった方、支えて下さった方あり！ただただ感謝です。

今でこそ、百戦錬磨のおばさんですが、長い長い間には理不尽なこと、思いもかけない大変な事態もありました。折れそうな時、いつも周りの方々から心遣いという妙薬をいただき何とか切り抜けてこれたように思います。心あれば必ず道は通ず。

若かった頃とは多いに違い、どんどん頭に入ってくるという知的興奮はもうとうの昔。これからしばらくの間は後任の方の補佐という形で少しですが、同窓会のお手伝いをさせていただきます。

事務局だよりへの掲載も今回が最後となりました。激励のお手紙、お電話もたくさんいただきました。その一言、一言が日々の原動力となったの言うまでもなく、自分の心にも少し丁寧なれたような気がします。

本当に長い間お世話になり、有難うございました。同窓会のますますの発展を心よりお祈りしております。

同窓会事務局 北嶋 邦恵